

令和6年1月23日

令和5年度 須坂市立須坂支援学校 学校評価のまとめについて

須坂市立須坂支援学校長 小松 賢吾

寒中の候、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より、本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

さて、今年度の学校評価アンケートの結果を以下のようにまとめましたので、ご報告いたします。ご多用の中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。各項目の評価や、いただいたご意見等を真摯に受け止め、今後の学校運営に生かしてまいります。今後も、子どもたちの「今と将来の生活の充実」に向け、保護者の皆様とともに考え、諸活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。このアンケートを生かしての来年度学校運営の方向については、2月の参観日でお知らせします。

【学校自己評価の結果より】A「そう思う」B「おおむねそう思う」C「そう思いにくい」D「そう思わない」
目標・学校像 (数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(1)児童生徒は、学校へ行くのを楽しみにしている。	保護者	73	17	10	0
	職員	25	75	0	0
(2) 学ぶ場として須坂支援学校を選んでよかった。 児童生徒の学ぶ場として相応しい学校である	保護者	73	27	0	0
	職員	21	75	4	0
(3)学校教育目標（めざす子どもの姿：「自分から、自分で、せいっぱい」自分らしく輝く子ども）の達成に向けた支援がなされている。	保護者	70	30	0	0
	職員	8	75	17	0

〈保護者〉

- ・子どもが学校へ行くのを楽しみにしていて、先生のこと大好きなのは伝わります。
- ・(1)について、日により差はありますが、先生と遊ぶこと過ごすことが楽しそうです。
- ・(2)について、私の希望とすると健常の子どもたちとのかかわりが特に今年に入ってから増えてきたので、それは須坂支援学校であることが大きいと思っています。
- ・(3)について、「自分で」という面で少し先生の支援にばらつきがあるように感じます。
- ・季節や学校行事のイベントを楽しみやすい気持ちや育てた上で参加できるよう工夫をしてくださっています。初めてのことが不安な子どもにとってはとても安心して生活を送れていると思います。
- ・よく支援していただいているので安心しています。
- ・体調面からお休みしないといけないと分かったとたん「学校に行きたかった」と大泣きするくらいに学校に行くのが楽しみで大好きなようです。
- ・(1)について、学校に行きたくなければ「行かない」「お留守番」など言って車から降りないので。
- ・子どもに合わせた活動を考えていろいろ新しいことをやっていたいただいていると思います。
- ・画工楽しかったという日が多くうれしく思っています。子どもの特性に応じ対応してくださり、大変ありがたく思っています。
- ・友達ができて宿泊学習もできてとてもうれしく、先生方にもいろいろ協力していただいています。

〈職員〉

- ・めざす子どもの姿に向けて支援しているつもりではいるが、支援の仕方についてはまだ不十分なこともある。
- ・学校に気持ちが向かない生徒がいるので、職員間でアイデアを出し合ったり、他職種と連携を図ったりしていきたい。
- ・自分で考えて判断や決断ができるような活動、場を仕組んでいる。
- ・須坂支援学校に登校してくる生徒は元気に来る子が多く、学校目標の「自分から、自分で、せいっぱい」というのはとても合っているなど思う。
- ・地域の子どもは地域で育てると言葉の通り、特別支援学校として地域に受け入れてもらえているところが多い。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・「学校へ行くのを楽しみにしている」の項目が昨年度の 64%から上昇した。また、D「そう思わない」という保護者がなくなった一方で、C「そう思いにくい」を選んだ保護者が10%いた。全体として、数値は上昇しており、コメントでも学校へ行くことを楽しみにしている子どもたちの姿をたくさん伝えていただいているが、学校は、何よりも子どもたちが毎日元気で楽しく過ごす場所であるべきことから、さらに改善に努めていきたい。
- ・「本校を選んで良かった」の項目について、A「そう思う」の項目を選んだ保護者が昨年度 80%から少し減少する結果となったが、AB合わせて 100%となった。児童生徒の願いを大切に、一人一人が主体的に取り組む学校生活づくりを評価していただいていると受け止めている。
- ・学校教育目標が一新されたことが、保護者に周知されてきており、ABの評価を合わせて 100%となった。本校職員の学校教育目標に向けての方向を肯定的に受け止めていただいていることに感謝したい。さらに、「じぶんから、じぶんで、せいっぱい」の姿を目指したいという、職員の評価の通りに、児童生徒の力を十分に発揮できる学校を目指していきたい。

2 人権を尊重した接し方・学校づくり

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(4)人権に配慮した、指導・支援がなされている。	保護者	77	23	0	0
	職員	38	58	4	0
(5)いじめや体罰がない学校環境となっている	保護者	77	20	3	0
	職員	58	38	4	0

〈保護者〉

- ・全く心配してない現状です。
- ・教室はオープンで人の行き来がよくあり、学校の皆さんがいい意味で垣根なく過ごしている様子があります。人と人のやりとりが多く、コミュニケーションを学ぶことができやすいお互いを知ることのしやすい環境だと思います。
- ・個々に気配りされていると思います。
- ・手を出してしまう子はいるので、止めてあげるのが難しそう。
- ・いじめや体罰がない学校に通えて安心して子どもを通わすことができ、親として本当にありがたく思います。
- ・大きな声を出して泣いたりしても、それが普通の学校生活として生かされている。

〈職員〉

- ・体罰がないように毎日意識しながら支援している。
- ・児童の中に「いやだな」と思いながら、時に怒りをあらわにしながら生活している子がいることを改善したいと思う。
- ・いじめや体罰について教師同士がアンテナをはって支援できているように思う。
- ・児童生徒の呼び方について、「さん」づけが徹底できてないところがある。
- ・保護者と担任の先生たちとのやりとりが細かくされているので、特にいじめについては早期に対応できそうだと感じる。
- ・支援者が児童を引っ張って連れて行こうとする姿を見かけた。その場所に「行きたい」と思える活動の設定、伝え方を考えていきたい。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・「人権に配慮した指導・支援」の項目について、A「そう思う」B「おおむねそう思う」の保護者の評価が、昨年度よりも高くなった(A75%→77%、B21%→23%)。日頃から、一人一人に寄り添った支援を心がけていることがこの評価につながったと考える。一方で「さん」づけが徹底できていないとの職員のコメントもあり、さらに人権感覚を磨いていく必要がある。
- ・「いじめや体罰のない学校」の項目について、肯定的な評価が多く見られる一方で、C「そう思いに

くいと回答した保護者(3%)、職員(4%)がいることから、児童生徒が安心できる学校、安全に過ごせる学校づくりを目指したい。支援の方法についても毎日の支援の見返しながら、さらに「行きたい」「やりたい」と思える活動をすることで、子どもたちが生き生きと過ごせる環境を整えたい。

3 個に応じた指導

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(6)個別の指導計画は、本人、保護者の願いが反映されている。	保護者	70	27	3	0
	職員	25	75	0	0
(7)個別の指導計画に沿って、日々の授業が実践され、授業内容はお子さんに合っている。	保護者	54	43	3	0
	職員	8	75	17	0

〈保護者〉

- ・参観の時でも個別の学習をほとんど見ることがなので、実際どのように進められているのか分からない。
- ・担当の先生と保護者で情報の共有ができ、保護者の意見も取り入れていただいている。
- ・具体的な希望をそのまま採用していただき、統一した指示ができています。
- ・本人の能力に合わせて行っていてくださっていると思います。
- ・時折プリントの内容がやさしすぎる、簡単すぎるのではと思うことがある(難しいものばかりではやる気も失せるので、簡単なものもほしいですが)。テストというわけではないけど、1~2年生程度の計算ドリル等で、どこまで理解できているのか、苦手な問題は何か把握し、分かる問題+苦手な問題を混ぜて、少しでも苦手な問題もできるようになるよう強化してもらいたい。
- ・懇談会で先生方には保護者の願いを伝えていて、対応していただいている。
- ・いろいろ考えて教材を用意していただき、ありがとうございます。
- ・工夫した指導計画を考えていただきありがとうございます。
- ・個別の指導計画は保護者の願いを反映していただきありがとうございますと実感できました。
- ・支援会議で出たことが生かされて、本人も成長できているし、突然のアクシデントや方向性の違いが出た時もすぐに対応していただいている。

〈職員〉

- ・本人の願いや興味関心を大切に指導計画を作成しているが、日々の授業での教材研究が足りず、反省の残る授業も多いと感じる。
- ・授業の内容がその子にとって興味の持てるものとなるような工夫をもっとできたらと思う。教材研究、準備の時間、指導計画の立案や見直しの時間がなかなかとれていない。
- ・担任としては保護者の願いを反映しているが、保護者の方はもっと学習をしてほしいという思いを持ってそこを十分に授業に生かしてないところがある。
- ・単元を通して、さらにつけたい力を明確にしながら支援したい。
- ・指導計画に盛り込む内容が多すぎて、評価するのが大変になりがち。日々更新していけるとよい。
- ・保護者、本人の願いや日々の授業を通して、保護者と学校が一緒になって指導計画、指導内容ができていると思う。
- ・個別の指導計画の願いの実現のために、日々の活動内容がさらに児童生徒の実態に合ったものになるとよいと思う。
- ・個への対応にもっと力を入れていいと思う。集団での活動に支援者がこだわらず、お子さんの願いを大切に支援ができるとよい。
- ・生活全体の中で自立活動の位置づけを明確にしたい。生単や作業学習を学校の中心に配置しながらも、日常生活の指導(性指導・道徳)、遊びの指導も個々の目標を持って指導していきたい。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・個別の指導計画について「本人、保護者のねがいを反映」(64%→70%)「日々の授業に反映」(39%→54%)とA評価が昨年度よりも増加した。保護者・職員ともに個別の指導計画の理解が進み、職員の記述内容がわかりやすいものになってきたことが評価につながったと考える。ただし、まだ数値が低いことから、さらにわかりやすい個別の指導計画としていきたい。
- ・一方で、個別の指導計画を生かして日々の授業につなげることについて、職員がさらに理解をすすめていく必要があることが、C項目の17%という多さに繋がっている。個別の指導計画の有効活用をさらに進めると共に、研修を積み重ねていくことで改善につなげたい。

4 チーム支援

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(8)職員は、お子さんを理解し、特性に応じた支援をしている。	保護者	77	23	0	0
	職員	21	75	4	0
(9)部・学級の職員が連携して、児童生徒の支援に取り組んでいる。	保護者	77	23	3	0
	職員	33	63	4	0

〈保護者〉

- ・ほとんど会話のしない先生がいる。子どもはどの先生も好きでかかわっているようなので、もう少しコミュニケーションがとれるといいのですが。
- ・先生によってばらつきがあったり、先生方同士の情報共有は少しされていなかったりするときがあります。
- ・本人の意思を細やかに聞き取った上でできるところから参加させていただいているので、初めてのことが苦手な本人にも納得して楽しい気持ちでいられていると思います。
- ・職員の皆様によく理解していただいていると思います。
- ・こうでないダメというこだわりが強く出る事柄については、写真を活用して先生方全員が分かるようにし、その都度かんしゃくをおこさないよう支援していただいているのを知り、ありがたいなと思っています。
- ・先生方は子どもに対して理由を確認して行動、対応してくれています。
- ・どの先生も子どものことを理解していると思います。
- ・子どもの気持ちを考えて、特性に応じた支援をしてくださっていると思います。
- ・親身になって取り組んでいただいているし、話を聞いてくださって対応していただいているので、申し分ありません。

〈職員〉

- ・家庭ではできる学習が学校ではできないという児童の姿は、私たちの姿勢を問われていると思う。年度当初のかわりが大切だったが、今後もその子の力を伸ばしていけるようなかわりをしたい。
- ・クラスだけでなく、にじ1・2組で12名を支援できていて、とてもありがたい。
- ・情報共有ができるように努めている。が、部によって様子が異なる。窓口担当以外のお子さんの指導目標や支援方法も把握していきたい。
- ・一人一人、生徒の理解ができており、それぞれの生徒の支援方法が確立されている。
- ・言葉での理解が難しい子どもに対しても言葉だけの指示が多いように感じる。
- ・特に小学部の生単の準備など、クラスに関係なく一緒に準備し、その時間も児童生徒理解につながっている。
- ・学級の職員の人数が多いので、定期的に学級担任が児童の実態や支援方法を確認する時間が必要。
- ・専門性サポートチームを機能させたい。行動支援についての理解を深め、協力していけるようにしたい。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・チーム支援についての2つの項目のA項目いずれも増加した（「特性に応じた支援」71%→77%、「連携した支援」57%→77%）。新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、以前よりも日頃の授業を見ていただく機会が増えたことも理由であると思われるが、朝の職員連絡会やクラスでの打ち合わせの機会増加も児童生徒理解や職員間の連携強化に良い影響を及ぼしたと考える。
- ・一方で、「話のしない職員がいる」「先生によってのばらつき」というコメントもあり、窓口職員とそれ以外での職員との連携不足が指摘されている。さらに、「学級の全職員で児童生徒全員を支援する」ことを大事に捉えて、どの児童生徒の保護者の方とも話ができるように務めていきたい。

5 保護者との連携

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(10)保護者とは、十分に連携でき、安心感・信頼感を感じる。	保護者	60	40	0	0
	職員	29	63	8	0
(11)学校は、保護者の思いに寄り添い、誠意を持って応えている。	保護者	67	33	0	0
	職員	38	58	4	0

〈保護者〉

- ・学校と家とではだいぶ違うので、大変なところが伝わりきらない時がある。
- ・保護者の思いに寄り添い、子どもにも合う支援をしてくれていると思います。
- ・(10)について、安心感と信頼感はあるのですが、連携できているのが十分でないと思っています。
- ・(11)について、学校一丸となってという感じではなく思われます。
- ・先生方と接するのはどうしても子どもと一緒にいるときになりがちで、あまり時間をかけるのが難しいときがあります。でもお話を終わりでしっかり聞いていただいたり、本人の体調など聞き取ってくださったりしているので、日々の変化に対応できるよう連携していると思います。
- ・学校のできごとなどこまめに報告していただいていますし、こちらの要望もお伝えしているので安心しています。
- ・送迎時や連絡ノートで引継ぎができています。
- ・何かあればまめに連絡をくださるので、安心しています。
- ・安心して何でも相談させていただいて、大変ありがたく思っています。信頼できる先生方で相談させていただいて、とてもよかった。
- ・(9)(10)の通りよくしていただけて頭が下がるばかりです。本当にありがとうございます。

〈職員〉

- ・ふだんなかなか会えない保護者が安心感を持てるよう、さらにこまめに連絡をとり合いたい。
- ・おうちの方と意向に相違がある場合、それを押しつけずにどうすり合わせていくかが難しい。
- ・指導計画、学校での様子などを適度に連携し、情報共有ができていと思う。
- ・毎日の送迎、連絡帳では頻繁にやりとりしているが、「確認のため」「念のため」の連絡でも誠意を持って対応できるようにしたい。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・「安心・信頼感を感じる」「思いに寄り添い、誠意を持って応える」のどちらの項目もABを合わせて100%であったり、温かいコメントも多くいただいたりしてありがたく思う。一方で、「学校一丸となっている感じではない」というコメントがあり、保護者からいただいた声に十分応え切れていない部分があることに着目して、クラス・部・学校と情報を共有したり連携したりしながら対応し、保護者の方の思いにさらに寄り添えるようにしていきたい。また、「(家庭の)大変なところが伝わりきらない」「(伝えたいが)あまり時間をかけるのが難しい」と情報共有の難しさについては、懇談会や支援会議を活用して、保護者からの情報を共有することで、さらに連携を深めていきたい。

6 地域連携

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(12)支援会議を通して、福祉・医療機関や市町村などと連携し、保護者のニーズに答え、計画的な支援を行っている。	保護者	77	20	3	0
	職員	33	63	4	0
(13)学校からのおたよりなどで、学校の様子が伝わっている。	保護者	73	27	0	0
	職員	50	50	0	0

〈保護者〉

- ・先生によっては伝わらない時がある。言葉が出ないので、もう少し細かくノートに書いてほしい。
- ・(12)について、支援会議はとても貴重だと思います。
- ・(13)について、学校の様子、個々のクラスで(そらとほし別で)いただけると、より詳しく伝えていただけるように思います。
- ・本人に対する対応を統一するときに知識や経験を基にしたアドバイスやアイデアを直接いただけるので、多方面からの支援して下さる方が集まる支援会議はとても有意義だと思います。
- ・支援会議では関係してくださっている方たちが出席されているので、いろいろな面で助かっています。
- ・何気ない質問でも真剣に考えてくださっているのを感じます。支援会議に市役所の方の参加はあまりないですが、会ったことのない子のお話を聞いていて理解できるのかな?と思う時があります。先生方の写真撮りも大変だなあと感じます。
- ・おたより楽しみです。
- ・福祉サービスや進路のことで相談させていただき、ご支援を賜り、本当にありがたかったです。
- ・連絡帳やおたよりで学校での様子も分かり、うれしいです。

〈職員〉

- ・必要に応じて個別に相談支援専門員や福祉課の方などと相談したり情報共有をしたりしている。
- ・学校での様子を伝えることができています。
- ・保護者や児童生徒本人の困り感について、将来のことまで考えてみんなで支援の方向性を考えていけるとよい。
- ・小中学部しかないので、高等部やその先の就労に向けての情報や交流がもっとできると、子どもや保護者もイメージが広がり、職員も今つける力が分かりやすいのではないかと感じます。
- ・ふだんなかなか会えない保護者が安心感を持てるよう、さらにこまめに連絡をとり合いたい。
- ・保護者との支援の方向性のすりあわせができていくように、さらに工夫していきたい。
- ・指導計画、学校での様子などを適度に連携し、情報共有ができています。
- ・毎日の送迎、連絡帳では頻繁にやりとりしているが、「確認のため」「念のため」の連絡でも誠意を持って対応できるようにしたい。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・「支援会議を通しての連携」について、A評価が増加した(64%→77%)。新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、オンラインでの支援会議ではなく、実際に顔を合わせて支援会議を開催できるようになり、医療・福祉との連携もしやすくなったことも大きな要因であると考えている。
- ・「学校の様子」の項目についてもC評価がなくなり、A評価も増加して肯定的なコメントも多く見られた。一方で、ノートの記述について、職員間でばらつきが見られるとのコメントもあり、記入時間を確保しながら、丁寧に記述して伝えられるようにしていきたい。

7 交流及び共同学習

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(13) 須坂小学校や常盤中学校および居住地校との交流はお互いを知り合う機会となっている。	保護者	60	33	7	0
	職員	25	63	12	0

〈保護者〉

- ・居住地校交流はそちらの担任の先生もとても好意的でうまくいっていますが、須坂小の子どもたちとは建物を共有しているだけ。居住地では期間が空いても他学年から今でも声がかかり、学校にいても心地よいですが、須坂小では敷地内で名前を呼ばれたこともなく、近いが遠い学校と感じる。
- ・副学籍校との交流は、とても貴重で様々な学びをもたらしていただいています。
- ・児童の皆様が支援学校の教室まで直接訪れてくれている様子だったので、とてもうれしく思いました。
- ・居住地校との交流はありませんが、須坂小学校の児童さんたちとの交流はとてもありがたいと思っています。
- ・須坂小の子どもたちには周知されていますが、居住地校の児童たちにはまだ「誰？」状態で、支援級の先生ぐらいしか周知されていないと思われます。でも、交流がなければ存在すら知られていないと思うので、交流はあった方がよいです。
- ・たくさん交流できありがたいです。
- ・地域（居住地校）の文化祭や体育祭を見に連れて行っていただけると嬉しいです。親が同行したほうがよければ同行します

〈職員〉

- ・小学校6年生の親善音楽会やブロック交流会に出かけ、他校の子どもたちと交流できた。出かけることに大変さはあっても、参加することで自然と生まれる理解があると思う。来年度以降も地域の学校との交流の機会があれば参加できるとよい。
- ・日常的な自然なかかわりを今後も大切にしていきたい。
- ・須坂小と支援学校がもう少し歩み寄って一緒に活動できる場があるとよい。
- ・ブロック交流会等で交流する機会がある。
- ・コロナ禍で制限があった交流が復活しつつある。交流の機会を意識して設定していくことが必要。
- ・交流することで、自校にとっても相手校にとっても相手を理解することにつながる。子どもたちにとって過度な負担にならない範囲で続けていけると良い。
- ・自然と交流ができていて素敵だなと思う。一緒に活動することで、問題が生じたときはどうしていけばいいかを一緒に考えていけるとよい。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなったことにより、A評価が44%→60%と大きく増加した。今後、交流をより円滑にしたり、副学籍の交流も活発にしたりしていくことで交流を望む保護者の要望に応えていき、さらにA評価を高めていきたい。
- ・一方で職員のA評価は、37%→25%と大きく減少した。交流が止まっていた状態から、急に開始された交流も多く、どのようにすればより良い交流となるのか、悩んでいる様子がある。副学籍校の先生とのやり取りを自然なものとしていくことで、より良い交流の方法を探していきたい。
- ・須坂小学校との日常的な自然な交流の良さがコメントでも挙げられている一方で、その姿が保護者に十分に伝わっていない様子がある（8 学校への意見要望へのコメントを含む）。1日の様子を十分に見ていただけるような機会を参観日に設けたり、より具体的に伝わったりするようなおたよりなどで、保護者の方にその良さが伝わるような工夫をしていきたい。
- ・須坂小学校との交流については、須坂小学校の先生方とも連携しながら、より良い交流の方法をさぐっていきたい。

8 学校への意見・要望等

〈保護者〉

- ・校舎を共有している意味がないと年々感じている。学年が上がると居住地校交流が減るかと思っているので、須坂小の子どもたちと近づければと思いますが、須坂小側が消極的なのでしょうか。人数も少ないので、交流が盛んなのかなと思っていますが、学校側が思うほど交流ができていると保護者は感じていません。全く交流のない兄弟の学校の子もたちの方がまだ「だあれ？」のように声をかけてくれることがあります。同じ校舎で過ごしているメリットをもう少し分かるようにお知らせ（おたより）なり感じられるといいです。これなら居住地の支援級に 入れた方がよかったなとよく感じてしまうので、支援学校で良かったと交流に関してはお願いしたいです。
- ・学校へではありませんが、いじめ調査、障害児に実際のことが分かるのでしょうか。全国でおそらく同様の、しなければならぬことですので、仕方ないとは思いますが、今回も私の個人的な見解で回答していますが、送迎時や参観の時だけの見たところで記入しているので、実際のところは分かりません。本人も伝えられません。また他のお子さん同士で、私が見る限りそう思われる現場を見ましたが、それがいじめなのかケンカなのか障がいによるものなのか、そのお子さんたちと私のかかわりが薄いので、判断がつきません。本当に親の私を書いてよいのでしょうか。
- ・中学部の様子が見えているようでよく分からない点があります。生活に必要な力をつけるとして小学部は季節の イベントを小目標にして達成に向けて努力する流れが見えていて分かりやすいのですが、勉学という分かりやすい目的がない分、どのように生活に必要な力を育てていくのか、少し細かく知りたいなという気持ちがあります。本人が「中学部行くの？次は高校生？」などと聞いてきたりするため、返答がとても悩ましいです。
- ・クラスにコロナやインフルエンザ、風邪がはやっている場合、我が子を病院に連れて行くとき、人数が分かると 助かります（名前は不要）。病院で聞かれても「いません」と答えていて、後日保護者の方々と話した時休んでいたと 言われ「ええっ！」と思います。検査をする、しないのバロメーターでもあります。
- ・いつも一生懸命指導をしていただき、感謝しております。
- ・修学旅行など学校外での活動でも車イス利用だったり食事の加工が必要だったり、いろいろ特別な介助が必要な子ですが、他の子たちと同じ活動ができるように工夫や配慮をしていただき、子どももとても喜んでいると思います。いろんな障害のある子どもたちをこれからも柔軟に受け入れる学校であってほしいです。
- ・来年から改修工事が行われますが、希望が通るとうれしいです。木工作业や児童が作った作物などを包装したりする教室（部屋）ができるとよいと思います。どんなふうになるのか楽しみです。
- ・帰り道で車の窓を開けて信号待ちしていたら、道を歩いている小学生が「〇〇君の家だ」と言っているのを聞いて「〇〇のこと知っているんだ」と思い、うれしくなりました。

【評価を踏まえた今後の学校運営の方向】

- ・保護者からは、学校運営に関し、昨年を引き続き肯定的な評価を多くいただいたことをありがたく受け止めるとともに、A評価にしなかったB評価の保護者や、C評価であった保護者の思いに寄り添いたい。
- ・昨年度から改善に取り組むことで成果は上がっているが、個別の指導計画の活用（本人・保護者の願いの反映、学習のねらいや評価〔育ち及び支援に関する評価〕の共有）、チーム支援・保護者との連携（どの職員も保護者と十分にコミュニケーションを取る）、交流および共同学習（常盤中との交流・副学籍校交流の充実）について、保護者や職員から寄せられた意見を参考としながら、児童生徒の確かな育ちにつながるかという視点で具体的な取組を明確にし、今後もさらに改善を図っていききたい。
- ・項目全体で職員の評価の低さが目立つ。具体的な改善を図ることを繰り返すことで、確かな実感と共に職員自らの肯定感を上げていきたい。